

逝去された名誉会員等への追悼文

大井田隆先生を追悼して



1953年12月22日 生まれ
 1978年 弘前大学医学部卒業
 1978年 厚生省入省
 1980年 国立公衆衛生院専攻課程
 修了
 1985年 福井県厚生部保健予防課
 長
 1988年 国立公衆衛生院研究課程
 修了

1988年 厚生省健康政策局計画課専門官
 1993年 三重県環境部長
 1995年 三重県健康福祉部長
 1996年 科学技術庁研究開発局がん研究調整官
 1998年 厚生省保険局医療課 医療監査指導室長
 1999年 国立公衆衛生院衛生行政学部長
 2002年 日本大学医学部公衆衛生学教授
 2017年 日本大学特任教授

日本公衆衛生学会の学会長、理事長を歴任された大井田隆先生が2019年9月12日に逝去されました。生前のご厚情に深く感謝申し上げるとともに、ご功績を偲び、僭越ながら追悼の文を捧げたいと思います。

大井田先生は1953年に群馬でお生まれになりました。名門、群馬県立高崎高校を経て弘前大学医学部に進学されました。「タカタカ」の愛称で知られる高崎高校は、自由な校風と高い志をもつ生徒が多いことで知られています。先生もそのような雰囲気の中で豊かな見識を養われました。弘前大学へ進まれたのは、入学試験で地理を選択できたから、と仰っておられました。弘前大学も自由で大らかな校風と伺っています。当時、国立大学で社会科学の試験を、日本史、世界史の2科目からの選択を指定する大学が多かったのですが、弘前大学は地理も選択可能だったとのこと。幅広い分野、特に社会科学にもご造詣の深かった先生が、のちに公衆衛生の道を選ばれたのは必然であったのかもしれない。

大学卒業後は厚生省に入省され、国立公衆衛生院で学ばれておられます。公衆衛生院では衛生統計学部におられた福富和夫先生に師事されて修了論文を

纏めておられます。フィールドワークである合同臨地訓練では、衛生行政学部長の西三郎先生のグループに入られて厳しいご指導をいただいたとのことでした。その合同臨地訓練で一緒に学ばれた優子夫人と、後年華燭の典をあげられることとなります。

公衆衛生院の衛生行政学部長時代には、妊婦の喫煙行動の全国調査など、喫煙の健康影響に関する研究を進められました。その頃から睡眠に関する調査を始められ、日本大学に移られてからも、睡眠の研究は大井田先生のライフワークのひとつになりました。

日本大学時代は、喫煙や睡眠の研究を中心に研究活動を続ける一方、持ち前の優しさと心遣いに溢れたご性格で学生の指導に当たられ、学生からも慕われていたと伺っております。

ご業績をご紹介すれば紙面がいくらあっても足りません。本学会においては、2005年に公衆衛生学会庶務担当理事に就任され、2010年には学会長(東京)、2011年から2017年までは理事長として学会を支えてくださいました。2014年春に体調を崩されましたが、その後も病身にも関わらず、学会法人化の道筋をつけていただきました。私は、学会長代行、理事長代行として大井田先生にお仕えしました。先生の豊かな識見と行政経験に裏づけられたバランス感覚がなければ法人化は難しかったと思います。大井田先生、ほんとうにありがとうございました。

大井田先生のご逝去に先立つ3年前、2016年9月には、国立保健医療科学院(旧国立公衆衛生院)の、国際研究協力部長を務められた兵井伸行先生が、また大井田先生ご逝去の5日後、2019年9月17日には、人材育成部長を務められた西田茂樹先生が逝去されました。3人の先生方は同学年の同い年で、大井田先生が白金にあった公衆衛生院で衛生行政学部長を務められていたころ、5階の隣り合った研究室で活躍されておられました。私も3先生の研究室にお邪魔させていただいた記憶があります。先生方の早すぎる死はまことに残念でなりません。きっと天国でにぎやかに公衆衛生談議に花を咲かせていらっしゃることでしょう。

ご冥福をお祈りいたします。

公益財団法人東京都結核予防会理事長 櫻山豊夫